



「多治見の夏の暑さは尋常ではありません。でも、そのことが画期的なタイルを開発するきっかけになりました」

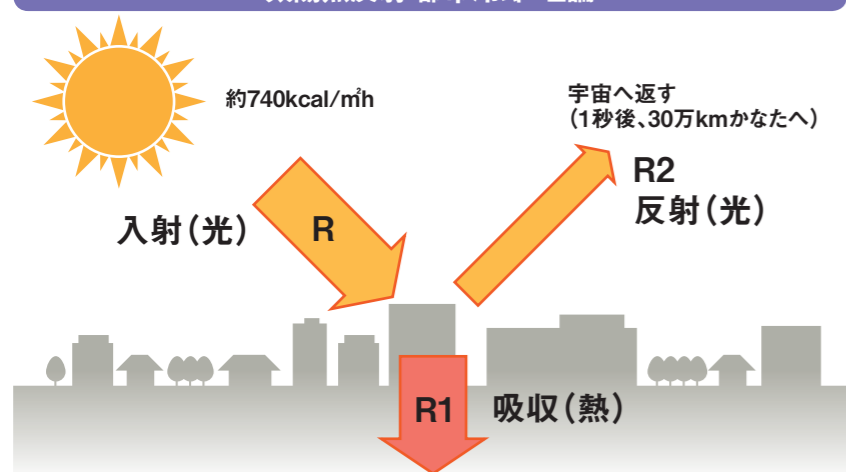
こう話すのは、多治見商工会議所の牛込進会頭だ。会頭は暑さの原因になつているヒートアイランド現象（都市部で異常に気温が高くなること）の緩和策に取り組みようと考えていた。そんな矢先、多治

商工会議所の行動力が触媒に

岐阜県多治見市は、日本一高い気温を記録したところだ。その暑さを何とか和らげることができな

いかに、と多治見商工会議所が首頭を取つて、地元企業と名古屋工業大学が連携。陶磁器の製造技術と大学の研究成果を結集し、生まれたのが「クールアイランドタイル」だ。このタイルは気温を下げるのに役立つ、しかも地場産業を活性化させる起爆剤になることが期待されている。行政も、市長のトップセールスなどにより、協力を惜しまない。

太陽熱反射 都市冷却 理論



都市全体の反射率を高めれば、高温化は軽減される! $R1 = R - R2$

ヒートアイランド現象は、都市の大規模化と構造に起因している。その仕組みは、こうだ。まず、ビル壁面に到達した太陽光が、対象物それ

ぞれの吸収率でビル躯体に侵入(蓄熱)する一方、その反射率に応じる反射分は道路に向かう。しかも、アスファルトの熱吸収率が95%と非常に高いため、結局、都市に降り注ぐ太陽光の多くは、ビル躯体と道路に蓄積されてしまう。

その結果、夜になつても気温が下がらずに、熱帯夜が続いてヒートアイランド現象を起こすことになる。対策としては、都市に照射する太陽熱を反射させ、都市内部に蓄熱しないようにすればいいというわけだ。

研究成果を生かした新製品誕生

牛込会頭は、岩尾教授のその熱い思いと理論を何とかビジネスに生かせないかと、地元企業を集めて勉強会を開いた。すると、あるタイルメーカーが取り組みたいと手を挙げた。その背景には業界が置かれている厳しい状況があった。当時、岐阜県のタイル製品出

日本一暑いまちで開発したヒートアイランド現象防止タイル

多治見商工会議所 岐阜・多治見

見市が40・9℃という最高気温を記録した。これが平成19年夏のことで、牛込会頭はすぐに行動を起こし、母校・名古屋工業大学の岩尾憲三教授に相談した。すると、

教授は「私の研究を検討してみてもどうか」と提案した。岩尾教授は電力会社出身で、非常に実務的なうえ、ビジネスについてもよく心得ていた。しかも「太陽熱反射都市冷却理論」を提唱し、

取材・清水 高山田清志 関根利子

特集

地域経済の活性化を目的に、各地で産学連携が模索されている。成功例を見てみると、すでにその土地にある意外な特徴・利点が浮かび上がる。こうした事例はこれからの産学連携のヒントになろう。

産学連携で不況を乗り切れ

